

ヲ得但工務課、會計課ノ管理及契約ノ管理ハ米国人以外ノ外国人ニ転讓又ハ委託スルコトヲ得ス

第十条

一将来江蘇省内ノ台莊ヨリ鎮江ニ至ル大運河ノ区劃ヲ改修スル為借款スル場合ニ於テハ其ノ申込ハ先ツ「アメリカン、インタナショナル、コーパレーション」ニ之ヲ為スヘシ

第十一条

一本契約ハ相互ニ照会セル支那語及英吉利語ノ本文ヲ以テ四通ヲ作成ス本契約ノ文理又ハ意義ニ関シ爭議ヲ生ジタルトキハ英吉利語ノ本文ニ從フヘキモノトス

二本契約ノ支那語及英吉利語ノ正文一部ハ左記ニ交付セラ

ルヘク且保管セラルヘシ

(一) 水利局

(二) 外交部

(三) 在北京米国公使館

(四) 「コーパレーション」

第十二条

一本契約ハ其ノ一部ヲ政府外交部ヨリ在北京亞米利加合衆

国公使館ニ送付ノ日ニ其ノ効力ヲ發生ス

右証拠トシテ支那共和国政府及「アメリカン、インタナショナル、コーパレーション」ハ水災救済及水利督辦並「コーパレーション」ノ代表者ヲシテ千九百十七年十一月二十日支那国北京ニ於テ本契約ニ調印セシム

支那共和国水災救済及水利督辦

熊 希 齡

「アメリカン、インタナショナル、コーパレーション」代表者

「ダブリュー、エフ、ケーリ」
証人「エフ、シ、ヒッチコック」
証人「ティ、エス、ウエイ」

附 日本ノ滿蒙鐵道事業ヘノ米國資本家協同ニ関スル件

四四二 一月五日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本ノ滿蒙鐵道事業ニ対シ米國資本家協同ノ
余地有無ニ付意見ヲ承知シタキ旨米國公使申

出ニ関シ請訓ノ件

別 電 一 同日在中国林公使ヨリ本野外務大臣宛電報第一〇号

右ニ関スル米國公使ノ来信要旨ノ件

二 同日在中国林公使ヨリ本野外務大臣宛電報第一一号

右米國公使ノ申越ニ対スル回答案ノ件

附 記 一 大正五年十月二十四日付在米國佐藤大使ヨリ
寺内兼任外務大臣宛公第四二五号信

「デーリー」氏ノ日米協同中国開發論ニ関スル新聞記事等報告ノ件

二 支那問題ヲ中心トシテ觀タル日米關係処分案

第九号 極秘

一月三日附書面ヲ以テ米國公使ヨリ滿洲ニ於ケル我方關係ノ鐵道ニ対シ米國資本家ト協同ノ余地アルヘキヤ否ヤニ関シ本使ノ私見ヲ非公式ニ承知シタキ旨大要別電第一〇号ノ通り申越シタル処右ハ滿洲鐵道ノ中立又ハ錦愛鐵道ノ布設計画等トハ全然性質ヲ異ニシ我方ノ計画ニ参加シタシト云フ希望ニ外ナラザルヲ以テ第一、我方ニ於テ主動者タルノ地位ヲ保持スルコト、第二、滿蒙ニ於ケル我特殊利益ニ影響ヲ及ボサシメザルコト、第三、我方ニ於テモ米支間ノ鉄

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

道契約ニ参加スルコトヲ方針トシテ先方ノ提議ニ応ズルコトトセバ寧ロ有益ナラズヤト思考ス

殊ニ先方ノ提議ハ多分 American International Corporation 辺リノ申出ニ依ルモノナルヘク且其ノ純然タル実業的見地ニ基クハ明白ナルノミナラズ英仏米資本ノ或ハ流入スヘキコトハ四鄭鐵道契約ニ於テモ現ニ予想シ居タル次第ニ付旁至急本件ニ対シテ好意的考慮ヲ加ヘラルル様致シタク尚本件ハ単ニ本使一己ノ私見ヲ尋ネ来リタル形式トナリ居ル次第ニ付兎ニ角一応別電第一一号ノ趣旨ヲ以テ回答致置キ帝國政府御詮議ノ結果ヲ待チテ更ニ具体的回答ヲ与フルコト然ルヘクト思考ス何分ノ義御電訓ヲ請フ

(別 電 一)

一月五日在中国林公使宛本野外務大臣宛電報第一〇号

第一〇号 極秘

(米國公使ノ来信要旨)

支那ニ於ケル純然タル商工業ニ対シ日米兩國資本家ノ間ニ協同ノ可能 (Possibility of Co-operation) ナルヘキヤニ就テハ兩國ニ於テ盛ニ論議セラレ本使モ貴公使ト会谈ノ際屢本問題ニ言及セリ、本使ハ四鄭鐵道契約中ニ其公債ヲ倫敦

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

巴里以外組育ニ於テモ發行スヘキ規定アルコトヲ聞知シ右ハ日本資本家ニ於テ錦愛鐵道關係資本団又ハ其他ノ米國資本団ト協同ヲ欲スルノ希望アルコトヲ表示セルモノナリトモ存セラル然ルニ本使ハ過去約三年間ニ日本ガ滿洲ニ於テ獲得セリト伝ヘラルル鐵道建造ニ関スル Concession ノ範圍及性質ニ付多ク知ル所ナク且該鐵道ニ対スル日米資本家間ノ協同ニ関シ兩者ノ間ニ何等カノ具體的の話合アリタルヤ一切承知セザルモ右協同ノ能否ニ関シ其内貴公使ト所見ヲ交換シタキニ付前記滿洲鐵道契約ニ関シ何分ノ報道ヲ与ヘラルルヲ得ハ幸トスル所ナリ

(別電二)

一月五日在中国林公使發本野外務大臣宛電報第一一号
右米國公使ノ申越ニ対スル回答案

第一一号 極秘 別電

四鄭鐵道ニ関スル一九一五年十二月ノ契約中正金銀行ハ市場ノ都合ニ依リ公債ノ全部又ハ一部ヲ倫敦巴里又ハ紐育ニ於テ發行スルコトヲ得トノ規定アルハ事實ニ相違ナキモ該公債ハ僅カニ五百万円ノ少額ニ止マリタルヲ以テ昨年五月尽ク日本市場ニ於テ發行ヲ了セリ然ルニ帝國政府ハ一九一

在米特命全權大使 佐 藤 愛 磨(印)

外務大臣伯爵 寺内 正毅殿

「ゲーリー」氏ノ日米協同支那開發論及東洋「モンロー」主義論ニ関スル新聞所載報告ノ件

合衆國鋼鐵会社總理「ゲーリー」氏 Judge Elbert H. Gary カ帰米以來荐リニ日米協同支那開發說ヲ唱ヘ居ルコトハ累次報告ニ及ヒタル通ナル処昨二十二日ノ紐育「ヘラルド」ハ長文ノ同氏談話ヲ載セタルカ論說欄ニ於テ右談話ノ要領ヲ紹介シ「ゲーリー」氏ハ米日支協同シテ東洋ノ未開地ヲ開墾シ相互ニ利益ヲ收ムルノ途ヲ見出スコト決シテ難カラズト云ヘリ、同氏ハ最近日本及支那ニ遊ビ朝野到ル処門満ナル協力ニ対スル希望ノ横溢セルヲ認メタリ

同氏ハ支那カ漸ク日本ヨリ學ブヘキ所多キヲ覺リ曩日ノ反感ヲ遺シテ日本ト好誼ヲ敦ウスルノ賢ナルヲ思フ者漸ク多カラムトスルノ形勢ナリト語り、又日米兩國ハ決シテ他國ト難件ヲ構フルヲ好ムモノニ非ズ外交ノ事勿論時ニ支吾扞格ヲ免レザルモ友好ノ精神ヲ以テ之ニ対スレバ容易ニ解決ノ途ヲ見出シ得ザル問題ハ之ナカルベシ、米日支ノ協同ハ東洋ニ於ケル米國貿易發展ノ必要ナル第一階梯ナリ米國

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

四四二

四二二

三年十月支那政府ヲシテ日本資本家ノ資金ニ由リ前記四鄭鐵道ノ外(一)鄭家屯洮南間、(二)開原海龍間、(三)長春洮南間ノ諸鐵道ヲ建造スヘキコト並ニ將來洮南熱河間及海龍吉林間ニ鐵道ヲ建造セムトスル場合ニ外國資金ヲ借入レントスルトキハ最先ニ日本資本家ニ商議スヘキコトヲ約セシメ千九百十五年五月滿蒙ニ於ケル鐵道投資ニ関シ概括的の優先權ヲ得タリ、閣下ノ希望セラルル報道ハ多分右等ノ事柄ナルヘク元來支那ノ利源開發ノ為メ日米兩國資本家ノ相協同スルコトハ本使ノ宿望ニシテ日米提携說ハ本使ノ歡迎スル所ナリ去リナガラ南滿洲及東部内蒙古ニ於テハ日本ハ特殊利益ヲ有スルヲ以テ右等地方ニ於ケル鐵道ニ対スル日米兩國協同ノ問題ニ就テハ相當ノ考量ヲ要スルニ付追ツテ更ニ回答スルコトト致シタク將又米國資本家ト支那政府トノ間ニ締結セラレタル鐵道契約ノ概要竝之ニ対シ將來日本資本家ニ於テ協同ノ余地アルヘキヤヲ此際承知スル事ヲ得ハ本使ノ誠ニ幸甚トスル所ナリ

(附記一)

公第四二五号

(十一月十五日接受)

大正五年十月二十四日

政府ヨリ適當ナル懲罰ヲ得バ米國財業者ハ喜テ大資本ヲ支那開發ニ投スヘシ、米國ノ輿情ハ早晚政府ヲシテ斯カル懲罰ヲ為サシムルニ至ルヘシト叙ヘタリ云々ト掲ケタリ、

右「ヘラルド」ノ特ニ論說トシテ紹介シタル要領以外「ゲーリー」氏ハ尚ホ日本ハ其發達速ニシテ遂ニ東洋ノ英國タラムトスルモノノ如シト語り又日本カ東洋ニ於テ自己ノ「モンロー」主義ヲ提唱セムトスルノ時機到来シツアリ、勿論合衆國ハ之ニ反對スルノ理由ナシト信ス、日本ハ斯ル態度ヲ採リテモ既得權又ハ既定事業ヲ侵害阻止スルカ如キ管ナク支那ノ治定ニ力ヲ濫キ之ニ依リ門戸開放ハ永ク維持セラルルニ至ルヘシ、日本ノ海洋港灣開放ヲ望ムハ吾人ト異ルコトナシト云ヒ更ニ日支兩國カ列強大戰後世界貿易界ニ主要ナル地位ヲ占ムルニ至ルヘキヲ述ヘ日本商業家ノ勤勉機敏ナルヲ稱シ支那ハ米日兩國ノ援助ヲ驩迎シツアリ云云ト語り居レリ

「ゲーリー」氏ハ翌日又紐育「タイムス」記者ニ対シ大戰後列國ハ保護關稅ヲ設定シ又ハ其率ヲ高ムヘク英國サヘモ其例ニ洩レザルニ至ルヘク從テ米國ハ適當ナル保護關稅ヲ設クルコト緊要ナルニ拘ラズ共和黨ノ選舉運動ニ於テ此

四四二

四三三

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

問題ニ重キヲ置クコト少キハ遺憾ナリ云々ト語レル後日米支關係及東洋「モンロー」主義ニ関シ略ボ前記同様ノコトヲ繰返シ居レリ、

廿三日ノ紐育「ヘラルド」ハ紐育ニ於ケル東洋ニ興味ヲ有スル諸名士中前記「ゲーリー」氏談話ニ賛意ヲ表スル者多ク一般説ハ若シ米國財業者カ自己ノ利益ヨリハ寧ロ支那ノ福祉ヲ主タル目的トナスコト明カナル場合ニハ米國政府ハ此等財業者ノ支那ニ投資シ其資源ノ開發ヲ計ルコトヲ慫慂スルノ途ヲ講スルコト可然ト云フニ在リ、「インデペンデント」主筆ニシテ Federal Council of the Church of Christ of America ノ日本委員長タル「ハミルトン」、ホルト」氏ノ如キモ右「ゲーリー」氏ノ日米支關係及東洋「モンロー」主義論ニ同意ヲ表シ唯米國政府ハ財業者ニ對シ借款ノ元本及利子回収ニ関シ保証ヲ与フルガ如キコトヲ為スヘカラズ、政府ハ単ニ非公式ニ斯カル財業者ノ企劃ヲ是認スルニ止ムヘキモノナリト語レリ云々ノ記事ヲ載セタリ

動モスレハ軍備擴張論ノ引合ニ日本ヲ引出シ本邦ニ不利益ナル論調ヲ洩シ勝ナル華府「ポスト」モ二十四日社説ニ

ルニ其ノ有利ナル形勢ヲ戰後長ク持續シ得ルヤ否ヤ是レ頗ル重要ナル問題ニシテ之ガ要諦ハ実ニ日本カ列強關係ヲ如何ニ調理スルカニ存スヘシ而シテ列強關係中日英日露ノ關係ハ已ニ定策アリ日仏ノ關係ハ大体ニ於テ日露ノ關係ニ追従スヘク日獨ノ關係ハ今ニ於テ予定セムトスルハ早計ナリ然ルニ茲ニ最モ困難ナル問題ハ日米ノ關係ナリ

二、支那問題ニ関スル日本ノ對米政策ハ從來專ラ米國ノ對支活動ヲ抑止セムコトヲ主眼トセルニ似タリ然ルニ米國カ支那ニ發展シ來タルハ必然ノ大勢ニシテ帝國現在ノ国力ヲ以テシテハ之ヲ抑止スルコト極メテ困難ナリ蓋シ今日ニ於テコソ歐洲戰爭ノ為メ米國內及南米地方ニ有利ニシテ且比較的安全ナル放資事業多キト支那政局ノ現状ヲ審ニセス且之ニ對シ不安ノ念ヲ抱ケルトノ為メ對支投資ニ関スル米國資本家ノ態度大体ニ於テ消極的ニシテ進テ投資スル十分ノ勇氣ヲ欠ケルカ如キモ今後支那ノ時局ニシテ愈々拾収ノ基礎定マルカ又ハ歐洲戰爭ニシテ終局ニ近クニ至ラバ米國資本家ハ單ニ資本家自身ノ利益ノ為メヨリシテモ必ズヤ進ンデ支那ニ投資セザレバ已マザルベ

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

四四二

四一四

於テ「ゲーリー」氏ノ米國政府ニ希望スルガ如キ政策ハ米國財業界ノ驕迎スル所ナルヘク又東洋ニ於テ日本カ米國ノ「モンロー」主義ト同意味ノ東洋「モンロー」主義ヲ採ルニ至ラハ結局東洋ニ對スル外國資本ノ流入ヲ誘致スルコト米國ノ「モンロー」主義ガ南中米諸國ニ英獨仏ノ資本ヲ吸引シタルト同様ナルヘク又日本ガ斯カル態度ヲ採ルニ至ラバ自ラ支那ニ對スル束縛ヲ輕減スルニ至ルヘシ云々ト述ヘタリ

右往電第一八三号說明旁關係新聞切抜相添及報告候

敬具

註 在米國佐藤大使宛寺内兼任外務大臣宛電報第一八三号及新聞切抜省略

(附記二)

(秘)

支那問題ヲ中心トシテ觀タル日米關係処分案

(政務局第一課立案)

一、支那問題ハ支那ノ形勢今後如何ニ變スルトモ歐洲戰爭カ尙相當期間繼續シ且ツ列強關係ニ意外ノ變化ヲ生ゼザル限り大体ニ於テ日本ニ取り有利ニ發展セシメ得ヘシ然

ク又支那側ニ在リテモ必要上盛ニ其投資ヲ誘フヘシ若シ夫レ新大統領選舉ノ結果共和黨ノ勝利ニ歸スルニ至ランカ米國カ其政策上ヨリシテモ力ヲ支那問題ニ傾注シ來ルコト「ウイルソン」政府ノ比ニアラザルヤ明ナリ、袁世凱死後ノ善後策トシテ起レル財政問題ニ就テモ英露仏等ノ諸國ハ資力ノ余裕少ナク到底自ラ巨資ヲ投スル能ハズサリトテ之ヲ日本ノ自由ニ一任スルハ衷心ニ於テ彼等ノ欲スル処ニアラザルベキヲ以テ寧ロ何等カノ機會ニ依リテ米國ヲ支那ニ誘ヒ來リ聯合國側ト行動ヲ共ニセシメントスルコト想像ニ難カラズ是レ蓋シ獨逸トノ關係ヨリスルモ聯合國側ノ希望スル処ナルベケレバナリ(最近問題トナレル五國財團ヨリ獨逸ヲ除キ米國團ヲ加入セシメントスル英仏露諸國ノ内意ノ如キ之カ一端タルコト勿論ナリ)

三、然ルニ一面日米ノ衝突ハヨシ交戦ノ結果我勝利ニ歸シ得ル見込アリトスルモ尙出來得ル限り之ヲ避クルヲ得策トスルコト申ス迄モナシ蓋シ(一)日米ノ衝突ハ我國ヲシテ産業品ノ一大販路ヲ失ハシメ之カ為メ我經濟界ノ蒙ル打擊極メテ甚大ナルモノアルベク(二)又米國ニ對シテハ事実

四四二

四一五

上日英同盟ノ適用スルヲ得ズ(三)且又日米戦争起ラバ露国若クハ独逸等ヲシテ其間支那ニ發展スルノ好機會ヲ捉ヘシムルモノナレハナリ

四、斯クノ如ク米國ノ支那ニ於ケル發展ガ大勢ニシテ而シテ之ト衝突スルコト日本ニ取り極メテ不利益ナリトスレバ此ノ發展ノ大勢ヲ逆用シテ以テ日本ノ為メニ有利ニシテ之ヲ廻轉セシムルノ策ヲ講スルコト最必要ナリトス、思フニ移民問題ヨリ起ラントスル日米ノ衝突ハ現時ノ如ク我自制ニヨリ之ヲ避クルヲ得ヘキモ米國カ支那ニ發展シ支那問題ヲ中心トシテ往年ノ露國ノ如ク或ハ政治的ニ或ハ經濟的ニ殊ニ所謂米國式ノ突飛ナル行動ニヨリ日本ノ立場ヲ脅威シ来ラハ日本ハ最早自制ノ余地ナカルヘク又國民的感情ノ上ヨリ云フモ之ニヨリ起ル日米ノ衝突ハ極メテ劇烈ナラザルヲ得ザルベシ、

元来日本ノ人口ハ増殖ノ結果米國ニ向テ溢ルルモ之レ寧ロ不自然ノ徑路ニシテ自然ノ徑路ハ地勢上歴史上經濟上ノ何レノ点ヨリ見ルモ支那大陸ナリ而モ從來欧米諸國ハ日本ニ対シ此自然ノ徑路ヲ塞キ居タル為メ日本ノ人口ハ勢ヒ不自然ノ方面ニ溢レザルヲ得ザリシナリ、サレバ米

本ニ不利ナラザル方面ニ導キ得ルコト

五、然ラハ米國ハ対支活動上日本トノ協同ヲ希望セルヤ、思フニ米國ノ対支發展ハ大勢ニシテ其ノ資本ニハ余裕アルニモ拘ハラズ其対支發展上甚タシク苦痛ヲ感シツアルハ支那ニ於ケル其ノ地位ノ薄弱ナルコト之ナリ米國ハ支那ニ租借地ノ類ヲ有セズ鐵道鈦山ヲ有セズ僅ニ先年粵漢鐵道ノ一部ニ割込ミタルト陝西石油借款導准借款ノ二契約ヲ結ベルアルノミ(而モ此ノ二契約ハ結果ニ於テ共ニ失敗ナリ)又米國ハ日露戰役以來支那ニ於ケル其事業ガ事毎ニ日本ノ為メニ妨害セラルルヲ感シ甚タ日本ヲ厭ヒ且ツ憚ルノ状アリサレバ米國トシテ夙ニ対支活動上日本トノ協同ヲ欲スルノ意嚮ヲ有シ從來屢々支那ニ於ケル日米提携ノ旨意ヲ表示セルコトアリ例ヘハ大正二年中日支兩國政府間ニ滿蒙五鐵道敷設ニ関スル大綱成立セシ際錦愛鐵道ノ關係者ナリト云フ緣故ヲ以テ「ストレート」ヨリ在米珍田大使ニ対シ米國側ハ滿蒙五鐵道ニ付敢テ苦情ハ申出デザルモ米國資本ノ使用ヲ望ム旨申込ミ来レル事アリ其後ニ於テモ移民問題ノ紛糾、墨西哥ニ対スル危惧、日本ノ南洋諸島占領等ハ益々米國識者ヲシテ日本ト

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

國ヲシテ此ノ点ニ着眼シヨク支那ニ対スル日本ノ特殊地位ト自然的膨脹ノ大勢トヲ諒得スル様セシメ一ハ以テ移民問題ノ根本的解決ニ資シ他ハ以テ支那ニ於ケル日米ノ衝突ヲ避クルノ途ニ出ヅヘシ即チ米國ハ日本ノ支那ニ於ケル政治經濟上ノ發展ハ必然且当然ノ運命ナルヲ諒認シ此ノ大勢ニ反抗セズ日本亦移民問題ヲ以テ米國ヲ煩ハサザルト共ニ米國カ支那ニ經濟的ニ發展スルニ当リテモ日本ハ進テ之ニ援助ヲ与フルコトセバ一面排日派ノ口実ヲモ断ツト共ニ支那問題ニ対スル日米ノ衝突ヲ免レ兩者ノ提携ヲ大成セシメ得ヘシ、而シテ支那問題ニ関スル日米ノ協調成ルニ於テハ大勢上日本ニトリ次ノ如キ利益アリ

(一)米國ハ露國ノ南下ニ対シ又英國ノ資本的活動ニ対シ牽制トナリ且障壁トナルコト

(二)米國ノ資本ヲ日本ニ取り有利ニ使用セシメテ日本ノ對支經營ヲ助成シ得ルコト

(三)從テ日本ハ英國系及仏國系ノ資本關係以外別ニ金融上ニ多大ノ自由ト便宜トヲ得ルコト

(四)日本ノ仕向ケ方次第ニテ米國ノ支那ニ於ケル發展ヲ日

ノ衝突ヲ憂慮セシメ現ニ「ルーズヴェルト」氏等ノ如キハ露骨ニ米國ハ極東ヲ日本ニ一任スル代リ日本モ米大陸ノコトニ手出シセザル様シ度旨ヲ主張シ延イテ支那ニ於ケル日米ノ經濟的提携論ヲ説キ又米國資本家中ニモ亦日米對支協同ヲ唱フルモノ増加シ「テイト」氏ノ如キ「デーリー」氏ノ如キ自ラ進デ之ヲ提唱スルニ至レルアリ之レ蓋シ勢ノ赴ク所ヲ見ルニ簡明直截ナル米國氣質ノ發露タルヘキモ亦以テ日米關係調理ノ好機タルヲ失ハズ其他在支米國公使モ種々ノ機會ニ於テ幾度カ座談的ニ日本公使ニ対シ支那ニ於ケル經濟的經營ニ関スル日米調和ヲ説キタルコトアリ又客年渋沢男渡米ノ際ニモ一片辭令ニアラザル此ノ種ノ言ヲ屢々米國有力者ヨリ耳ニシタリトノコトニテ最近帰朝ノ松岡在米帝國大使館書記官モ亦此種ノ興味アル消息ヲ齎ラシタリ

茲ニ注意スヘキハ日本カ若シ今ニ於テ米國ト結バザレバ彼ハ支那ニ於ケル其基礎ノ薄弱ナルヲ補ハントシテ或ハ米國式ノ突飛ナル活動ヲ開始スルカ又ハ勢ヒ露國系或ハ英國系ト結ブカ甚シキニ至テハ独逸系ト提携スルコトナキヲ保セザルニアリ

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

尚日米提携ニ付考量スヘキハ日英同盟ノ關係ニシテ明治四十三年中米國ヲ日英同盟ノ適用外ニ置ク趣旨ヨリ同盟條約一部ノ改訂ヲ見タルモ (第三回日英協約第四條) 其後英米ノ間ニ一般仲裁條約成立セサリシ為メ理論上ハ依然日米戰爭ノ際ニモ同盟條約ヲ適用シ得ルコトト成ル結果英國ノ日米衝突ヲ恐ルルコト決シテ昔日ニ讓ラズ故ニ英國ノ此ノ感情ヲ巧ミニ利用セバ日米協同ノ實現ヲ一層容易ナラシムルヲ得ヘシ

六、政府ニ於テ本件主義一度決セハ支那ノ政治借款、經濟借款ニ關スル我對米方針モ自然之ニ從テ決スヘク又日米提携問題實現ニ適當ナル時機及手段ハ多々可有之モ誠ニ今二三ノ例ヲ示セハ現下支那ノ形勢ハ捉フヘキ一ノ好時機ナリ蓋シ今後支那カ外國ノ財政的援助ヲ要スルハ必然ノ勢ニシテ而モ歐洲ノ資本ハ之ニ応スルノ余裕少ナク而シテ日本ハ目下政治上支那ニ於テ最モ優越ノ地位ヲ占メ居レバナリ況ヤ今春「リー、ヒッギンソン」商會借款成立ノ際南方革命軍ヨリ劇烈ナル反對ヲ受ケ米國品ニ對シ將ニ「ボイコット」ノ實行ヲサヘ見ムトセシ程ナリシ為米國資本家側ハ袁世凱死後南方派漸ク振ハントスル支那

且又政府ニ於テ如上ノ大勢ヲ作り主義上ノ宣明ヲ為シテ兩國ノ輿論ヲ陶冶誘致スルト同時ニ民間ノ事業家、實業家側ヲ刺戟シテ米國事業家、實業家トノ間ニ具體的ノ對支諸企業ニ付逐次提携ノ実ヲ挙ケシムルコト最肝要ナリトス蓋シ米國人ノ性質上主義ノ問題ヨリモ具體的ノ實行問題ニ最重キヲ置ケバナリ

尚茲ニ注意スヘキハ米國ニ對スル交渉ハ成ルベク開談ヲ淡泊ニナスヘキコト是ナリ現ニ客年日支交渉ノ際福建問題ニ關シ我方ヨリ打明ケテ露骨ニ開談シタル結果意外ノ成功ヲ見タル最近ノ実例アリ

七、要スルニ米國ノ對支經營發展力大勢ニシテ抑止シ得ザルモノトセバ突飛ニシテ而モ実力アル米國ヲ敵ニ廻ハシテ支那ニ活動セシムル代リ之ト協調ヲ保チ日本ノ味方トシ仲間トシテ相携ヘテ支那ニ發展ノ途ヲ講シ以テ一方日本ノ支那ニ對スル特殊優越ノ地位ヲ諒認セシメ且日米衝突ノ禍根ヲ永遠ニ絶ツト同時ニ他方日本ノ資本關係ヲ有利ニシ更ニ進テハ之ニヨリ露國ノ南下若クハ英國ノ資本的活動ヲモ牽制スルノ政策ニ出ヅルコト甚タ緊要ナリトス然ラズシテ事ヲ自然ノ成行ニ放置スルニ於テハ結局日

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

四四二

四一八

ノ形勢ニ對シ怖ジ氣ヲ生シ一時遠慮勝ニナリ居レルヲヤ或ハ又米國大統領更迭ノ時期モ一好機タルヲ失ハズ若シ民主黨出ヅレバ從來ノ政策即チ支那ニ對スル不干涉、東洋問題ニ對スル放任主義ノ立場ヲ利用シ且日米兩國永遠ノ親善ヲ期スル根本義ヲ土台トシテ一部米國資本事業家ノ思慮ナキ活動ノ為メニ支那問題ヲ中心トシテ日米ノ間ニ衝突ヲ釀サムコトヲ予防スルノ見地ヨリ開談スルヲ捷徑トスヘク之ニ反シテ共和黨立タハ例ヘ「ヒュース」ガ大統領タルトモ支那ニ對スル其政策ノ積極的タルハ之ヲ予期セザルベカラザルガ故ニ此ノ場合ニハ明治四十一年ノ日米協商ノ精神ニ準拠シテ往々世上ニ流布スル支那ニ於ケル日米爭鬪ノ疑惑ヲ解カムトスル旨意ヨリ交渉ヲ開始スルニ於テハ協議困難ナラザルヘシ

寺内新内閣ノ成立又ハ佐藤駐米新大使ノ赴任モ亦一機會トナシ得ヘシ
將又以上ノ如キ時機方法ニヨルトシテモ一面交渉ニ先チ予メ準備のニ又ハ之ト相竝テ日米双方ニ於ケル新聞ヲ操縱シ他面米國ニ於ケル公私兩面ノ社交ニ努メ以テ本件成立ヲ助成スルコト米國ノ國柄上頗ル必要ナルヘシ

(欄外註記)

「大正五年十月十六日為參考小池政務局長ニ提出」

四四三 一月五日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛

滿蒙鐵道事業ニ關スル日米兩國資本家協同問題
ニ付米國公使ヨリノ書面写送付ノ件

附屬書 一月三日附在中國米國公使ヨリ林公使宛書翰写
滿蒙鐵道事業ニ關スル日米兩國資本家協同問題
ノ件

機密第二号 極秘 (一月十日接受)

大正六年一月五日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

日米資本家共同問題ニ關シ米國公使ヨリ申出ノ件
本月三日付書面ヲ以テ滿洲ニ於ケル我方關係鐵道ニ對シ米國資本家共同ノ件ニ付米國公使ヨリ本使ノ私見ヲ尋越シタル次第ハ往電第一〇号ヲ以テ大要及報告置候処該書面写茲

四四三

四一九

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

ニ及送付候間委細右ニテ御了知相成度候也

追テ別紙前段ニ記載セル White 氏ハ米國公使館二等書記官ニ有之過日出淵書記官同氏ト會食ノ際友人間ノ私談トシテ支那ニ於ケル実業經營上日米兩國資本家ノ共同望マシキ次第ヲ論議シタルコトアル趣ニ有之候間為念申添候也

(附屬書)

一月三日附在中国米國公使ヨリ林公使宛書翰写
滿蒙鐵道事業ニ関スル日米兩國資本家協同問題ノ件

Legation of the

United States of America, Peking,

January 3, 1917.

My dear Colleague :

I have the honour to seek an informal and personal expression of your views in a matter which is of much interest to me. There has, as you know, been much discussion in both Japan and the United States as to the possibility of cooperation between the financial interests of our several countries in undertakings of a purely industrial and commercial character in China; we have sometimes touched upon this in talking

四四三

四二〇

together, and I have learned with great interest from Mr. White of a conversation with him in which the Secretary of your Legation stated his hearty personal advocacy of such cooperation.

If I am rightly informed, the contract concluded by the Yokohama Specie Bank, about a year ago, for the construction of the Suppingkai-Chengchiatun Railway, contained a provision for the flotation of bonds of the contemplated loan in New York, as well as in London and Paris. And I have conceived that in that fact there may be a concrete indication of a desire, on the part of Japanese financial interests, to seek the cooperation of American finance—either of the Group which already possesses certain rights in regard to the construction of a line from Chinchou, via Tsitsihar, to Aigun, under the Preliminary Contract of October 6, 1909, or of some other American bank or syndicate which might be found ready to participate in industrial undertakings in Manchuria.

My inquiry is of necessity rather vague, and of course wholly informal, as I am only very imperfectly informed as to the scope and character of the concessions for the construction of railways in South Man-

四四四 一月十七日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

滿蒙鐵道事業ニ関スル日米兩國資本家ノ協同

問題ニ付回訓ノ件

第五一号(極秘)

貴電第九号ニ関シ

米國公使宛回答案ハ貴電第一一号通りニテ差支ナキニ付一応貴官限りノ回答トシテ同公使ハ右様挨拶シ置カレ度將又米國公使ノ所謂協同ノ意義及範圍明瞭ヲ欠クモ(一)日米兩國資本家カ支那ニ於テ純然タル商業上又ハ工業上ノ企業ニ付協同スルハ帝國政府ノ歡迎スル所ニシテ帝國政府ハ之カ実現ノ為必要ナル援助ヲ与フルコトヲ辞セザルベク又(二)日本カ特殊利益ヲ有スル南滿洲及東部内蒙古ニ於テモ米國資本家ガ日本ニ於テ關係ヲ有スル鐵道其他ノ企業ニ関シ支那政府トノ契約ノ当事者トナルニアラズシテ只日本資本家ノ手ヲ經テ右企業ニ投資スルニ止マルニ於テハ帝國政府ニ於テ亦主義上何等ノ異議ヲ有セズ然レトモ同地方ニ於テ米國資本家カ前顯支那政府ト日本資本家トノ契約ニ参加シ同政府ニ對シテ直接ニ權利義務ヲ有スルニ至ルコトハ即チ日本ニ

churia, which are generally understood to have been granted to Japan during the past three years or so; and I have, moreover, no information as to any definite and concrete proposals having been made by either side with a view to realizing cooperation between American and Japanese financial interests along the lines indicated. I should, however, be glad of an opportunity to discuss this matter with you and to learn your views as to the eventual possibilities of such action: and I should be most grateful for any information you might feel disposed to give me, as to the agreement regarding the construction of railways in Manchuria by nationals of Japan, to facilitate a consideration of those possibilities.

With the assurance of my highest esteem, believe me, my dear Colleague,

Very sincerely yours,

(SD) Paul S. Reinsch.

His Excellency

Baron Hayashi,

The Japanese Minister.

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

四四四

四二一

於テ既得ノ地位ヲ全部又ハ一部拋棄スルニ非ザレバ行ハルベカラズ帝國政府ハ米國公使ガ此ノ意義及程度ニ於ケル協同ヲ予期スルモノニ非ザルコトヲ信ゼムト欲ス因ニ云フ南滿洲及東部内蒙古地方ニ於テ日本カ特殊地位ヲ有スルコトハ日支交渉ノ際ニ於ケル千九百十五年三月十三日在米日本大使宛米國國務長官書翰(大正四年四月十三日付機密送第六三三號参照)ニモ明記シアルカ如ク夙ニ米國政府ノ諒認シ居レル所ナリ(註)實際問題トシテハ四鄭鐵道ニ付テハ之カ企業ニ必要ナル資金ハ已ニ全部調達済ニシテ米國資本家投資ノ余地ナク其ノ他ノ滿蒙地方ニ於ケル日本關係各鐵道ニ付テハ未タ詳細ナル取極ノ成立セルモノナキヲ以テ該鐵道ニ關スル米國投資問題ノ具體的決定ハ之ヲ他日ニ譲ルノ外ナキ實況ナリ就テハ適當ノ機會アラバ米國公使ニ對シ帝國政府ノ意嚮トシテ右ノ次第可然申入レラレ且米國公使ノ所謂協同トハ如何ナル意味ナルヤヲ確メラルコトトシテモ差支ナキモ右ハ貴電第一一號末段米支鐵道借款ニ關スル日米協同問題ニ對スル米國公使回答振ヲ見タル上更ニ考慮ヲ加ヘ訂正ヲ要スルヤモ測リ難キニ付可相成ハ右回答ニ接セラレタル上ニテ更ニ何分ノ義回訓ヲ待チ措置セラルル様致度

排斥シテ其ノ団体ノミ一種ノ「モノポリー」ヲナサシムルカ如キハ我政府ノ主義上到底容認シ難キ所ナリト云ヒ暗ニ米國團ノ復歸ハ賛成シ難キ意向ヲ洩ラセリ又貴電第一七號ノ件ニ關シ夫レトナク聞キタル所右ハ國務省ヨリ特ニ訓令シタル義ニアラサルモ此種ノ協同ハ政府ノ歡迎スル所ニシテ在支公使ノ措置ハ何等國務省ノ意向ニ違背セズ只米國政府トシテハ滿洲ハ兎ニ角他ノ地方ニ於テハ他國カ利權ヲ獲得セル故ヲ以テ米國人カ同様ノ利權ヲ得ルコトヲ妨ゲラレ余義ナク他國ト協同セザルベカラザルガ如キハ其ノ欲セサル所ナリト云ヘリ

在英大使ヘ転電セリ

註

一月十八日日本野外務大臣宛在米佐藤大使宛往電第一七號ハ前掲ノ在中国林公使來電第九號全文ヲ転電シタルモノナリ

四四六 一月三十一日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛

滿蒙鐵道事業ニ對スル日米兩國資本家協同問題

題ニ關シ米國公使トノ往復書面写送付ノ件

附屬書一

翰写

日米兩國資本家協同問題ニ關シ回答ノ件

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

シ

四四五 一月二十七日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國ハ日本ノ山東省ニ於ケル優先權ヲ承認シ得ザル旨並中國ノ投資事業ニ對スル他國トノ

協同問題ニ關シ米國務長官談話ノ件

第二六號 秘

(一月二十七日接受)

二十六日國務長官ト会見ノ節往電第二二號ノ件(脫)旁々支那問題ニ言及セル所同長官ハ米國政府トシテハ滿洲ハ兎ニ角他ノ地方ニ於テ日本ノミナラス各國ノ優先權ヲ承認スル能ハス山東省ニ於ケル獨逸ノ地位ニ對シテモ從來同様ノ態度ヲ執リ來リタルヲ以テ日本カ獨逸ノ權利ヲ繼承シタリト云フモ均シク之ヲ承認スル能ハズ米國ハ飽迄同地方ニ於ケル米國人ノ利權企業ニ對シ獨逸又ハ日本政府ヨリ故障ヲ申入レラルヘキ筋合ニアラズト思考スト云ヒ支那大借款ニ米國加入ノ件ニ付テハ米國政府ハ米國資本家カ普通ノ形式ニ依リ個々ニ該國ニ投資スルハ歡迎スル所ニシテ之ニ對シ相當ノ援助ヲ与フルコトヲ辭セズト雖モ借款團ト云フカ如キ強大ノ機關ヲ造リ之レカ特殊ノ權利ヲ認メ他ノ資本家ヲ

二 一月二十九日附在中国米國公使ヨリ林公使宛

復翰写

日米兩國資本家協同問題ニ關シ更ニ申出ノ件

機密第三七號

(二月六日接受)

大正六年一月三十一日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

日米資本家共同問題ニ關シ米國公使ヨリ申出ノ件

本件ニ關シ貴電第五一號ヲ以テ米國公使ヘハ一先ツ往電第一一號ノ通り回答方御回訓ノ次第敬承依而本月二十日附ヲ以テ別紙甲号写ノ通り同公使ヘ回答致置候処右ニ對シ今般同使ヨリ更ニ別紙乙号写ノ通り申越候右ニテ御承知可相成通り米國公使ハ本使回答中

But as regards the practical side of the question in applying the said principle of co-operation to railway enterprises in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, it is more desirable that I shall be allowed to reply at a later date upon further consideration on account of the special position enjoyed by us in the

四四六

四三三

said regions.

トアリタルニ対シ若シ右言辞ニシテ日本ノ有スル特殊利権
カ米國資本ノ参加ヲ容認シ難キヤノ疑ヲ含蓄スルモノトセ
ハ意外ノ感ナキ能ハストナシ千九百九年十月二日ノ錦愛鉄
道ニ関スル予備契約ニ拠ル米國既得權ノ如キハ其後日支間
ニ成立シタル協定ニ依リ影響ヲ受クル事ナカルベキヲ信ズ
ト述べ居候処右ハ同公使ニ於テ本使ノ回答ニ対シ余リニ邪
推ヲ運ラシタルモノニシテ別紙甲号本使回答中ニハ米國資
本ノ参加ヲ容認シ難キヤノ疑ヲ含蓄スルカノ如キ何等言辞
無之將又錦愛鉄道問題ニ関スル我方ノ地位ハ該鉄道企業ニ
加入ノ意向ヲ有スル旨米國政府ニ対スル帝國政府声明ニ依
リ明白ナル次第ト存候

尚ホ本使ハ昨三十日米國公使ヲ往訪シ一時帰朝ノ挨拶ヲ為
シタル序ヲ以テ本件ニ談及シ今回帰朝ノ上ハ何レ本件關係
者トモ交談ノ機可有之從而帰任後本件談話ヲ続行スルヲ得
ヘクト思考スル旨ヲ述ヘ対支日米共同ノ件ニ関シテ目下小
野興業銀行副總裁ト米國側トノ間ニ行ハレシツアル交渉ノ
一端ニモ談及致候得共同公使ハ右ニ関シ別段情報ヲ有セザ
ルヤニ被見受候就テハ貴電第五十一号末段御来示ノ次第モ有

It is true that there is in the Ssuping-kai-Chengchia-tun Railway Loan Agreement concluded by the Yokohama Specie Bank in December, 1915, a provision authorizing the said bank to float the whole or a part of the loan in London, Paris or New York. With regard to this loan I have ascertained that the total sum was only five million yen and the bonds covering it were already issued in home market in May last.

The above mentioned loan agreement has its origin in an engagement made by the Chinese Government in October, 1913, in favour of the Imperial Government, which provides that the Chinese Government will construct the railway lines:

(1) Ssuping-kai-Chengchiatun-Taonanfu, (2) Tanoanfu-Changchun, (3) Kaiyuan-Hailung with the fund to be supplied by Japanese capitalists, and that, when the Chinese Government will in future construct the railway lines: (1) Taonanfu-Jehol, (2) Hailung-Kirin with Foreign capital, it should first negotiate with Japanese capitalists for funds required.

Besides the last mentioned engagement, the Japanese Government secured from China in May, 1915, a general preferential right concerning railway in-

之不取敢右及上報候間別紙各号御熟閱御詮議ノ上何分ノ義
御回訓相煩度別紙式通相添此段申進候也

追テ別紙甲号末段米支鉄道契約ニ我方資本家加入ノ件ニ
付テハ別紙乙号米國公使来信中何等記載無之ニ付今後同
公使ヨリ本件ニ談及ノ節何分ノ説明ヲ求ムル筈ニ有之將
又別紙乙号末段記載ノ大正二年十月ノ日支間協定ハ既ニ
同公使ニ対シ其現存ヲ打明シタル以上内容ノ提示ヲ拒否
難致ハ勿論ニ付写一部同公使内密ノ使用迄トシテ頒与致
度所存ニ有之候間右様御含置相成度此段申添候也

(附屬書一)

甲号写

一月二十日附林公使ヨリ在中國米國公使宛往翰

日米兩國資本家協同問題ニ関シ回答ノ件

My dear Colleague,

Peking, January 20, 1917.

I have read with great interest your letter of the 3rd instant on the subject of the possibility of co-operation between the financial interests of our two countries in railway undertakings in China and now have the honour to address to you the following by way of a reply of personal character.

vestments in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia.

Further I may add that, for all the lines other than that between Ssuping-kai and Chengchiatun which has a very short length of some fifty miles only, no loan agreement has ever been concluded or is being negotiated by Japanese capitalists.

I believe the above informations are exactly what you want to know and hope that they will serve your purpose.

With regard to the general principle of co-operation between Japanese and American capitalists with the object of developing natural resources in China, I may assure you most positively that I share the sentiment so spontaneously expressed in your letter. But as regards the practical side of the question in applying the said principle of co-operation to railway enterprises in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, it is more desirable that I shall be allowed to reply at a later date upon further consideration on account of the special position enjoyed by us in the said regions.

In the meantime, I should be very much obliged

if you would be good enough to furnish me with sufficient information regarding the scope and character of the railway agreement recently concluded by the American International Corporation with the Chinese Government together with an explanation as to whether there is any possibility of co-operation for Japanese capitalists in the undertaking provided therein.

With the assurance of my highest regards, believe me, my dear

Colleague, Yours very sincerely,
(S'd) G. Hayashi

(附屬書11)

ニ寄テ

一月二十九日附在中国米国公使ヨリ林公使宛復翰
日米両国家協同問題ニ関シ更ニ申越ノ件

Legation of the United
States of America, Peking,
January 29, 1917.

PERSONAL

My dear Colleague,

I beg to acknowledge and to thank you for the very interesting letter of the 20th instant, in which you so frankly set forth your personal views in reply

to my informal inquiries as to the possibilities of cooperation between American and Japanese capital in the development of railways in Manchuria.

I have noted with interest the fact "that, for all the lines other than that between Ssuningkai and Chengchiatun which has a very short length of some fifty miles only, no loan agreement has ever been concluded or is being negotiated by Japanese capitalists".

I also note that with respect to the remaining alignments dealt with in the Agreement of October, 1913, as well as to other possible railway enterprises in Southern Manchuria, you think it more desirable "to reply at a later date upon further consideration on account of the special position enjoyed by us in the said regions". I confess that your statement would come to me with a sense of surprise were it your intention to imply a doubt as to whether the specific concessions and rights held by your country, of which its legal position in that region is made up, would permit of the participation of American capital in particular enterprises there; and I look forward with much interest to the opportunity to learn your con-

are having an exchange of opinions.

With the assurance of the highest regard, I remain,
dear Baron Hayashi,

Very sincerely yours,
(SD) Paul S. Reinsch.

His Excellency
Baron Hayashi,
The Japanese Minister,
Peking, China.

四四七 三月八日 本野外務大臣ヨリ
在中國芳沢臨時代理公使宛

日米資本家協同問題ニ関シ米国公使ノ再申出

ニ対スル応酬振回訓ノ件

欧機密送第四〇号

日米資本家協同問題ニ関シ米国公使ヨリ申出ノ件
本件ニ関シ一月三十一日機密第三七号貴信ヲ以テ御申越ノ
次第有之候処本件ハ矢張り往電第五一号ヲ以テ申進シタル
帝國政府ノ意嚮ヲ体セラレ此上ノモ米国公使ニ対シ可然御
応酬相成様致度此段申進候也

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

四四八 四四九

四二八

四四八 三月十一日

在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本及中国ノ投資事業ニ関スル日米協同ニ付
日本興業銀行及米国国際会社間ニ合意成立ノ

件

第九八号

(三月十二日接受)

日本興業銀行ト「インターナショナル」トノ間ニ将来東洋ニ於ケル投資事業ニ関シ互ニ提携スヘキ契約ヲ作製スルノ商議先般来ヨリ継続中ノ処初メ先方ニテハスル束縛ヲ受クルコトヲ好マス余リ乘リ氣ニナラサル模様ナリシモ近来他ノ日米財力者間ニ寄々協同ノ氣配アルヲ耳ニシ為ニ「インターナショナル」方ニ於テ出シ抜カルルヲ虞レ俄ニ態度ヲ更メ日本興業銀行ト握手スルヲ主義トシテ承認シ唯支那運河契約其他目下相談中ノ日本水電契約等尚ホ終局ヲ告ケザル事態ニ顧ミ愈々是等カ具体的ニ履行セラルル場合ニ更ニ改メテ確定的ノ提携契約ヲ締結スヘク夫迄ノ処双方ヨリ何時ニテモ之ヲ解除シ得ヘキ了解ノ下ニ書面往復ノ形式ニ依リ左ノ三条項ニ対シ三月九日合意ヲ遂ケタリ右ハ合意者双方ノ勢力ニ鑑ミ将来日米經濟協同上有力ナル基礎ヲ作りタ

機密第三三号

(四月九日接受)

大正六年三月十二日

在米特命全權大使 佐 藤 愛 磨(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

「アメリカン、インターナショナル、コーポレーション」ト日本興業銀行トノ間ニ対東洋投資事業ニ関スル合意成立ノ件

本件ニ関シテハ往電第九八号ヲ以テ大要及申報置候処右往復ノ書面ハ別紙写ノ通りニ有之候ニ付尙通相添此段及報告候

敬具

(附屬書一)

三月九日附日本興業銀行副總裁ヨリ米国国際会社總裁宛往翰
写

HOTEL ASTOR
New York City

March ninth, 1917.

My dear Mr. Stone:

During some months past we have been discussing the possibility of arranging a basis for cooperation between the American International Corporation and the Industrial Bank of Japan. In this connection two

四 日米提携ニ依ル中国運河改修借款成立ニ関スル件 (附)

四四九

四二九

ルモノト思考ス

一、日本興業銀行及其ノ組合(以下Bト呼ブ)ガ日本又ハ支那ニ於ケル投資事業ニ関シ米国ノ資力ヲ要スル場合ニハ先ツ「インターナショナル」(以下Aト呼ブ)ニ相談スルコト

二、Aカ支那ニ於ケル投資事業ニ対シ日本資力ノ協力ヲ要スル場合ニハ先ツBニ相談スルコト

三、Aカ日本又ハ支那ニ於ケル投資提携ニ関シB以外ノ日本財力者ヨリ交渉セラルルトキ又ハB以外ノ日本財力者ヨリ日本ニ於ケル營業上ノ取極ヲ為サントスル場合ニハ先ツBト十分打合セヲ為スコト

四四九

三月十二日
在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛

日本興業銀行及米国国際会社間ニ対日中兩國
投資事業ニ関シ合意成立シタルニ付右往復文
書送付ノ件

附屬書一

三月九日附日本興業銀行副總裁ヨリ米国国際
会社總裁宛往翰
二 同右日附米国国際会社總裁ヨリ日本興業銀行
副總裁宛復翰写

specific propositions have been discussed; one covering hydro-electric development in Japan, and the other concerning our jointly financing the improvement of the Grand Canal. Negotiations with regard to these two enterprises are still in progress, and it is to be hoped that satisfactory and profitable business may result. As you know, I am about to return to Japan. I am advised that my Bank has, with the Bank of Korea, the Bank of Formosa and the Yokohama Specie Bank formed a syndicate for Chinese business. It occurs to me, therefore, that it might be mutually advantageous if, in addition to our endeavours to deal with the two enterprises mentioned, the Industrial Bank of Japan on behalf of itself and its associates, should come to a more general understanding as to cooperation with the American International Corporation.

You have verbally expressed to me your views as regards a general understanding. I quite appreciate that you feel it inadvisable for the American International Corporation to enter into any commitment which might prevent you from making such arrangements as might from time to time seem to you desirable and

expedient. On the other hand, we believe that there will be a number of enterprises in Japan and in China, in which, from our point of view, cooperation between Japanese and American interests would be desirable.

I should like, therefore, to suggest the following as points which might cover the relationship between the American International Corporation and the Industrial Bank of Japan on behalf of itself and its associates.

1. In case the Industrial Bank of Japan and/or its associates should desire to interest American capital in investments in Japan, or in case the Industrial Bank of Japan and/or its associates should desire cooperation of American capital in investments, or in financing enterprises, in China, the Industrial Bank of Japan and/or its associates will in the first instance approach the American International Corporation.

2. In case the American International Corporation should desire the cooperation of Japanese capital in connection with business in China in which the American International Corporation may be interested, the American International Corporation will in the first instance approach the Industrial Bank of Japan

we hope that the general understanding suggested in this letter may be considered to be in effect, although until the conclusion of a more formal agreement, it shall be considered as terminable at the will of either party.

I believe that an understanding of this sort would serve to obviate certain embarrassments which might otherwise arise and that it would, for this and other reasons, prove to be mutually advantageous.

I trust that you will concur in this view.

Yours very truly,

(Signed) Ono
Vice President

of the

Industrial Bank of Japan.

Charles A. Stone, Esquire, President,

American International Corporation,

No. 120 Broadway, New York.

(附屬書11)

三月九日附米國國際公社總裁ヨリ日本興業銀行副總裁宛復翰
写

March ninth, 1917.

My dear Mr. Ono :

四 日米提携ニ依ル中國運河改修借款成立ニ關スル件 (附)

on behalf of itself and/or its associates.

3. In case the American International Corporation should be approached by Japanese interests other than the Industrial Bank of Japan or its associates, with a view to inducing the American International Corporation to invest in or undertake business in Japan, or to cooperate with such Japanese interests in China, or in case the American International Corporation should itself desire to enter into arrangements for business in Japan with interests other than the Industrial Bank of Japan or its associates, the American International Corporation will, before entering into arrangements with such parties, fully discuss such matters with the Industrial Bank of Japan.

From our point of view we should like to have an understanding on the above lines for a term of three years. We quite understand, however, that until we have actually worked together in some enterprise, you may not wish to make a definite commitment for such a period. We should be glad, however, to feel that, pending the conclusion of a specific arrangement, we are at least agreed in principle as to the desirability of cooperation on the basis named. In the meantime,

I beg to acknowledge receipt of your letter of even date in which you refer to our discussions regarding cooperation in the hydro-electric development in Japan, and in connection with the improvement of the Grand Canal in China. In your letter under acknowledgment you also advise that the Industrial Bank of Japan, with the Bank of Korea, the Bank of Formosa and the Yokohama Specie Bank in forming a syndicate for Chinese business, and proposed the basis for a general understanding between the Industrial Bank of Japan and its associates, and the American International Corporation, for business in Japan and in China.

You of course understand that the American International Corporation has already entered into certain arrangements with the Chinese Government, and as we have clearly stated to you, while we should ourselves be glad to cooperate with Japanese interests for the improvement of the Grand Canal, we must first receive the approval of the Chinese Government before we shall be in a position to arrange for such cooperation. We hope, however, that this may soon be arranged and that it may be possible, with the approval of the Chinese Government to cooperate in other enterprises

in China. You understand, of course, that the American International Corporation does not wish to enter into any commitment with Japanese interests which will preclude it from entering into such other arrangements with other financial interests as may from time to time prove to be desirable or expedient. Insofar however, as cooperation between the American International Corporation and Japanese interests in China is concerned, and as regards business to be undertaken by the American International Corporation in Japan, I am in entire accord with you as to the desirability of an understanding being reached between the Industrial Bank of Japan and its associates, and the American International Corporation along the lines which you suggest, viz:

1. In case the Industrial Bank of Japan and/or its associates should desire to interest American capital in investments, or in financing enterprises, in China, the Industrial Bank of Japan and/or its associates will in the first instance approach the American International Corporation.
2. In case the American International Corporation should desire the cooperation of Japanese capital in

commitment for such a period.

Pending the conclusion of a specific arrangement I feel that we are agreed in principle as to the desirability of cooperation on the basis named. In the meantime we shall be glad to regard the general understanding proposed in your letter as in effect, it being understood as you suggest, that, until a more formal agreement is reached along the lines proposed, it shall be terminable at the will of either party.

It has been a great pleasure to meet you and to discuss with you during recent months the prospect for cooperation between Japanese and American in-

connection with business in China in which the American International Corporation may be interested, the American International Corporation will in the first instance approach the Industrial Bank of Japan on behalf of itself and/or its associates.

3. In case the American International Corporation should be approached by Japanese interests other than the Industrial Bank of Japan or its associates with a view to inducing the American International Corporation to invest in or undertake business in Japan, or to cooperate with such Japanese interests in China, or in case the American International Corporation should itself desire to enter into arrangements for business in Japan with interests other than the Industrial Bank of Japan or its associates, the American International Corporation will, before entering into arrangements with such parties, fully discuss such matters with the Industrial Bank of Japan.

We quite understand that from your point of view you would like to have an understanding on the above lines for a term of three years. We feel, however, that until we have actually worked together in some enterprise, it might not be wise to make a definite

terests. We trust that it may be possible to work out some satisfactory and mutually profitable basis for undertaking the water power development, and for cooperation in financing the improvement of the Grand Canal, which are now under consideration.

Yours very truly,
(Signed) Stone
President

Yejitro Ono, Esquire, Vice President,
The Industrial Bank of Japan,
Hotel Astor, New York.